

平成21年度の 生乳及び牛乳乳製品の需給見通しについて

平成21年12月24日
第4回需給等分科会・第3回需給・取引専門部会
社団法人 日本酪農乳業協会

1. 地域別の生乳生産量の動向

【北海道】

- ・19年8月以降、日均量ベースでは前年実績を上回って推移しており、21年11月以降も前年を超える水準の生産は続く見込まれる。
- ・第1四半期1,010千トン（101.4%）、第2四半期994千トン（101.0%）、第3四半期962千トン（100.1%）、第4四半期971千トン（100.3%）、年度合計3,937千トン（100.7%）と見通される。

【都府県】

- ・前年を下回って推移しているが、21年7月以降減少率が小さくなっており、11月以降も同様に推移すると見込まれる。
- ・第1四半期1,036千トン（96.5%）、第2四半期958千トン（99.0%）、第3四半期963千トン（98.5%）、第4四半期991千トン（97.5%）、年度合計3,948千トン（97.8%）と見通される。

【全国】

- ・全国トータルの生乳生産量は、第1四半期2,046千トン（98.8%）、第2四半期1,952千トン（100.0%）、第3四半期1,925千トン（99.3%）、第4四半期1,962千トン（98.9%）、年度合計7,885千トン（99.3%）と見通される。

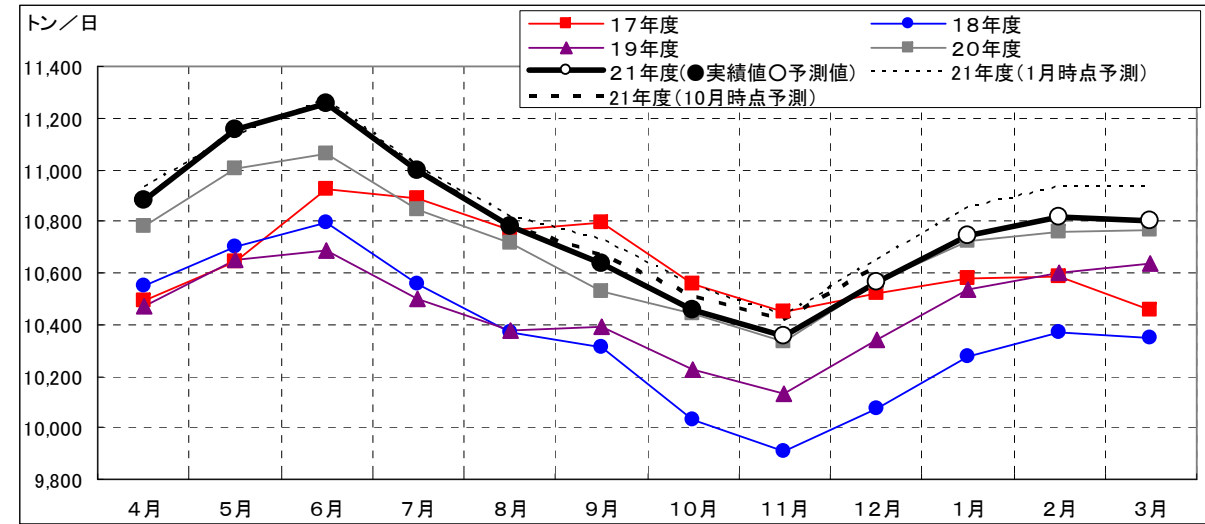
表1：平成21年度 地域別生乳生産量の見通し

	全 国		北海道		都府県	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
4月	675	98.8%	326	101.0%	349	96.8%
5月	702	98.8%	346	101.4%	356	96.4%
6月	669	99.0%	338	101.8%	331	96.3%
7月	668	99.8%	341	101.4%	327	98.2%
8月	652	99.8%	334	100.6%	318	98.9%
9月	632	100.5%	319	101.0%	313	99.9%
10月	646	99.4%	324	100.1%	322	98.8%
11月	624	99.5%	311	100.2%	313	98.7%
12月	655	99.0%	328	100.0%	327	98.1%
1月	667	98.8%	333	100.2%	334	97.4%
2月	612	99.0%	303	100.6%	309	97.5%
3月	683	98.9%	335	100.3%	348	97.5%
第1四半期	2,046	98.8%	1,010	101.4%	1,036	96.5%
第2四半期	1,952	100.0%	994	101.0%	958	99.0%
第3四半期	1,925	99.3%	962	100.1%	963	98.5%
第4四半期	1,962	98.9%	971	100.3%	991	97.5%
上期	3,998	99.4%	2,004	101.2%	1,994	97.7%
下期	3,887	99.1%	1,933	100.2%	1,954	98.0%
年度	7,885	99.3%	3,937	100.7%	3,948	97.8%

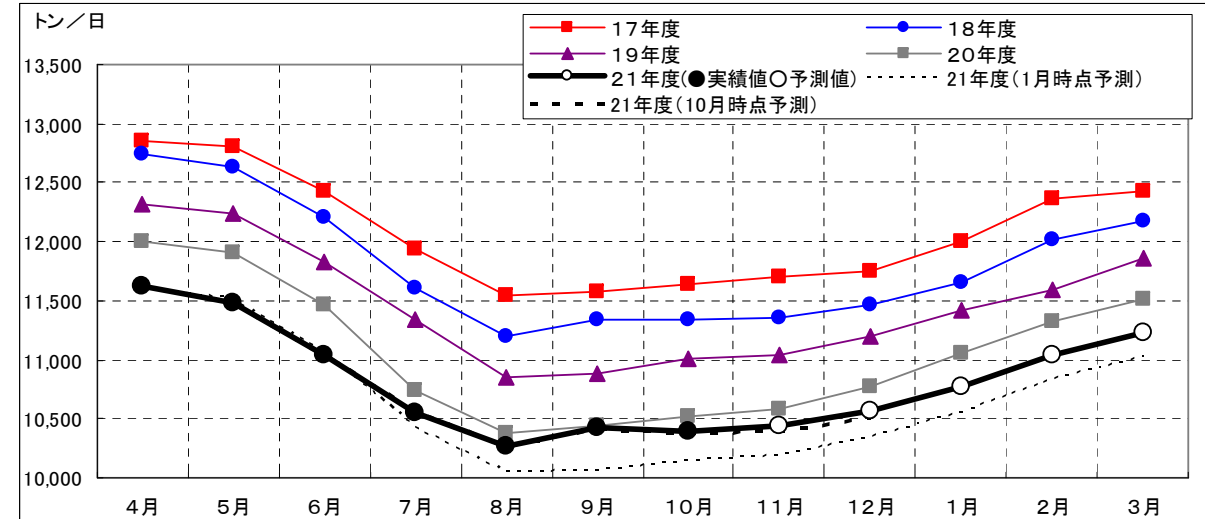
【生乳生産量予測の前提】

- 注1) 全国の予測値は、「北海道」及び「都府県」区分の2つの生乳生産量予測値を合算して算出。
 注2) 生乳生産者は計画生産に取り組んでいるが、本需給見通しは、現状の基調を基礎に算出している。

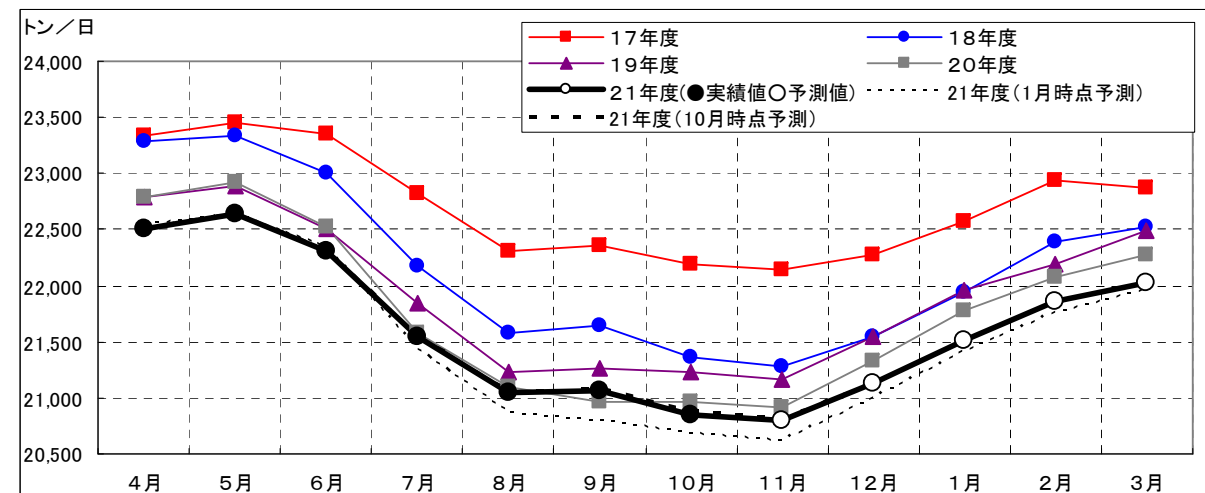
グラフ1. 北海道の生産量(日均量)



グラフ2. 都府県の生産量(日均量)



グラフ3. 全国の生産量(日均量)



2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳】

- ・21年3月以降、前年を大きく下回る水準で推移しており、11月以降も同様に推移すると見込まれる。
- ・第1四半期808千kl（90.7%）、第2四半期788千kl（87.7%）、第3四半期775千kl（88.7%）、第4四半期713千kl（89.2%）、年度合計3,084千kl（89.1%）と見通される。

【加工乳・成分調整牛乳・乳飲料】

- ・4月以降前年を大きく上回る水準で推移しており、11月以降も同様に推移すると見込まれる。
- ・第1四半期463千kl（110.4%）、第2四半期519千kl（111.8%）、第3四半期457千kl（113.8%）、第4四半期434千kl（114.6%）、年度合計1,873千kl（112.6%）と見通される。

【はっ酵乳】

- ・6月以降は前年を超える水準で推移しており、11月以降も同様に推移すると見込まれる。
- ・第1四半期220千kl（101.5%）、第2四半期217千kl（104.3%）、第3四半期194千kl（103.0%）、第4四半期198千kl（103.1%）、年度合計828千kl（102.9%）と見通される。

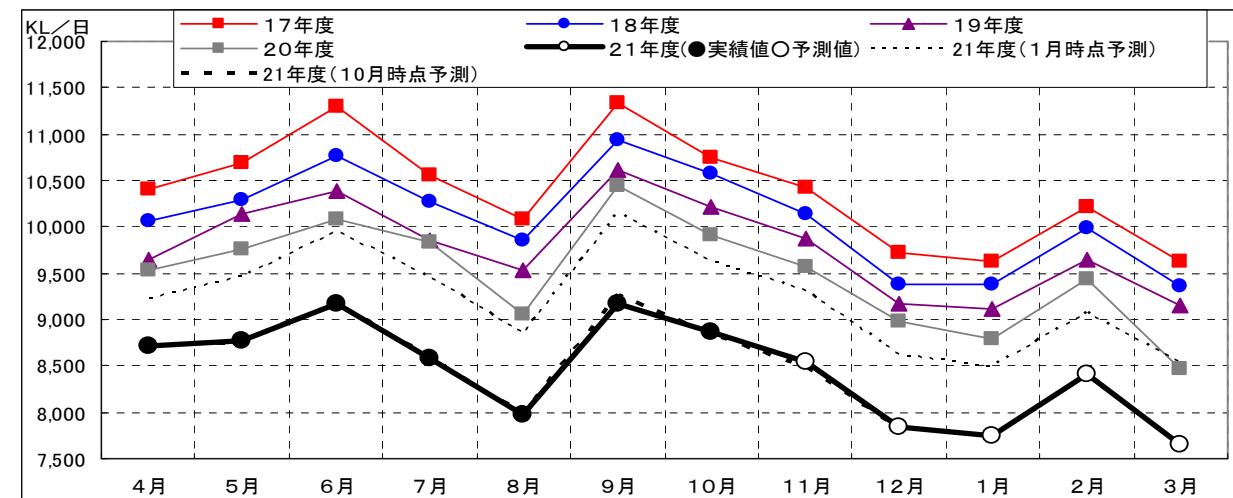
表2：平成21年度 牛乳等生産量の見通し

	牛乳		加工乳・成分調整牛乳・乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
4月	261	91.3%	144	107.0%	71	100.1%
5月	272	89.9%	159	111.7%	74	99.8%
6月	275	90.9%	159	112.3%	75	104.6%
7月	266	87.2%	171	108.8%	78	108.3%
8月	247	88.0%	177	115.1%	70	103.6%
9月	275	87.9%	171	111.5%	69	100.8%
10月	275	89.4%	164	112.7%	70	101.8%
11月	256	89.3%	148	114.8%	63	104.3%
12月	243	87.4%	145	114.0%	61	102.9%
1月	240	88.1%	144	116.0%	63	100.9%
2月	236	89.3%	135	114.7%	63	102.7%
3月	237	90.3%	155	113.3%	72	105.5%
第1四半期	808	90.7%	463	110.4%	220	101.5%
第2四半期	788	87.7%	519	111.8%	217	104.3%
第3四半期	775	88.7%	457	113.8%	194	103.0%
第4四半期	713	89.2%	434	114.6%	198	103.1%
上期	1,596	89.2%	982	111.1%	436	102.9%
下期	1,488	89.0%	891	114.2%	392	103.0%
年度	3,084	89.1%	1,873	112.6%	828	102.9%

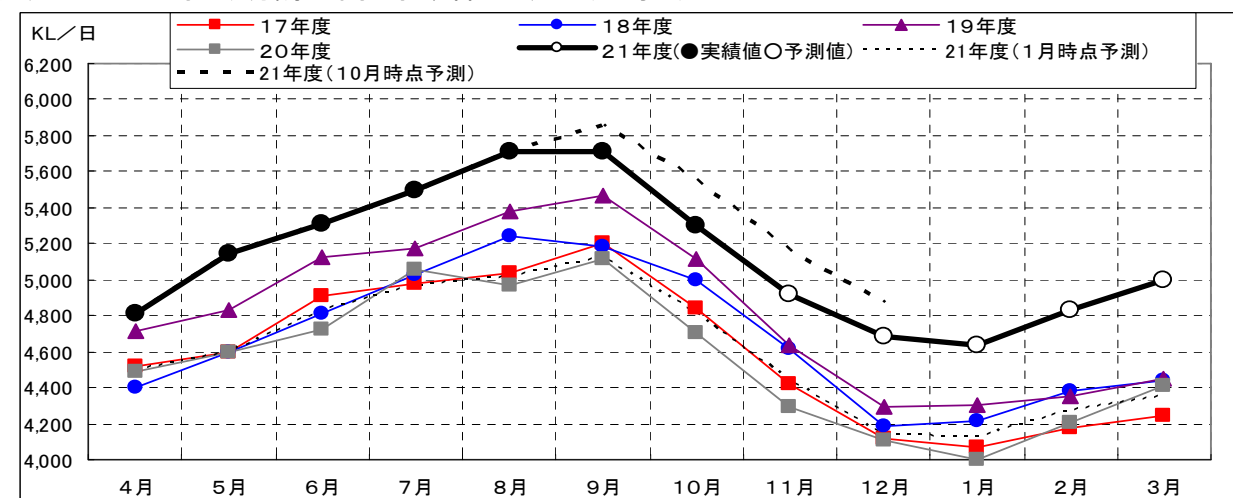
【牛乳等生産量予測の前提】

- 注1) 牛乳は、「学乳」「業務用牛乳」「業務用・学乳以外の牛乳」を別々に予測した値の総量。
 注2) 「加工乳・成分調整牛乳・乳飲料」は、「加工乳・成分調整牛乳」と「乳飲料」に区分して予測した値の総量。

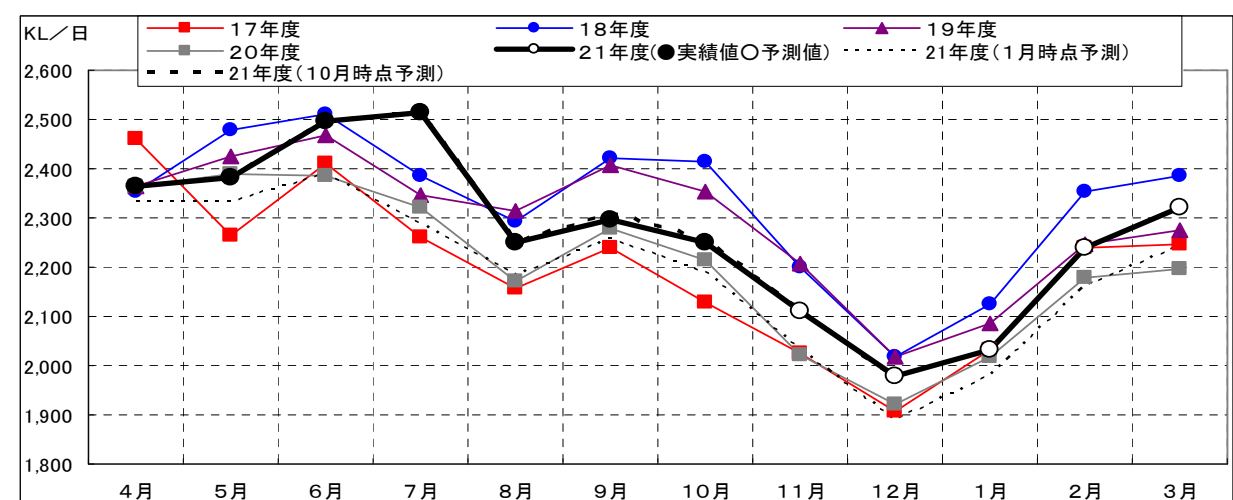
グラフ4. 牛乳の生産量(日量)



グラフ5. 加工乳・成分調整牛乳・乳飲料の生産量(日量)



グラフ6. はっ酵乳の生産量(日量)



3. 用途別処理量の動向

【生乳供給量】

・生乳生産量から自家消費量を差し引いた生乳供給量は、第1四半期2,028千トン(98.9%)、第2四半期1,933千トン(100.1%)、第3四半期1,906千トン(99.4%)、第4四半期1,945千トン(98.9%)、年度合計7,811千トン(99.3%)と見通される。

【牛乳等向生乳処理量】

・牛乳以外の牛乳類の消費が堅調であるものの、牛乳の消費が大幅に減少していることから、11月以降も前年を下回る低い水準で推移すると見込まれる。
 ・第1四半期1,095千トン(96.9%)、第2四半期1,090千トン(94.3%)、第3四半期1,037千トン(94.9%)、第4四半期979千トン(94.8%)、年度合計4,201千トン(95.2%)と見通される。

【乳製品向生乳処理量】

・乳製品向処理量は、第1四半期932千トン(101.5%)、第2四半期843千トン(108.7%)、第3四半期869千トン(105.2%)、第4四半期966千トン(103.5%)、年度合計3,609千トン(104.5%)と見通される。
 ・乳製品向処理量のうち、その他乳製品向処理量については、第1四半期393千トン(97.4%)、第2四半期384千トン(92.9%)、第3四半期409千トン(98.5%)、第4四半期377千トン(99.9%)で、年度合計1,562千トン(97.1%)と見通される。
 ・乳製品向処理量のうち、特定乳製品向処理量については、第1四半期540千トン(104.7%)、第2四半期460千トン(126.6%)、第3四半期460千トン(112.0%)、第4四半期588千トン(106.0%)で、年度合計2,047千トン(111.0%)と見通される。

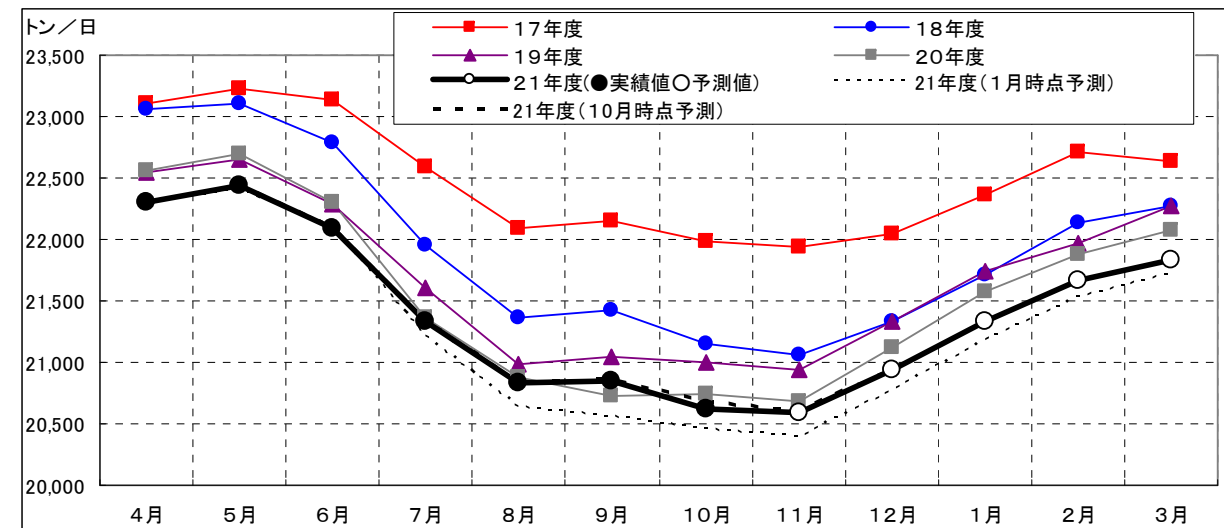
表3：平成21年度 生乳生産量及び用途別処理量の見通し

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向					
	前年比		前年比		前年比		前年比		特定乳製品向		その他乳製品向			
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比			
4月	675	98.8%	6	86.4%	669	98.9%	352	97.0%	317	101.0%	187	103.5%	130	97.6%
5月	702	98.8%	6	89.2%	696	98.9%	370	96.4%	326	101.8%	191	103.9%	135	99.0%
6月	669	99.0%	6	91.8%	663	99.1%	373	97.1%	290	101.7%	162	107.1%	127	95.5%
7月	668	99.8%	6	94.3%	661	99.9%	370	95.2%	291	106.5%	162	118.8%	129	94.2%
8月	652	99.8%	6	94.4%	646	99.8%	347	93.3%	299	108.7%	169	125.8%	130	92.4%
9月	632	100.5%	6	92.4%	626	100.6%	373	94.5%	253	111.2%	128	139.6%	125	92.0%
10月	646	99.4%	7	99.0%	639	99.4%	367	95.9%	272	104.7%	136	114.2%	137	96.7%
11月	624	99.5%	6	92.2%	618	99.5%	344	94.9%	273	106.1%	141	115.7%	132	97.5%
12月	655	99.0%	6	92.5%	649	99.1%	326	94.0%	323	104.9%	184	107.8%	139	101.2%
1月	667	98.8%	6	94.9%	661	98.8%	329	93.8%	332	104.4%	209	107.7%	124	99.1%
2月	612	99.0%	5	94.4%	606	99.0%	319	95.0%	288	103.9%	168	105.8%	120	101.3%
3月	683	98.9%	6	94.5%	677	98.9%	332	95.5%	345	102.4%	211	104.4%	134	99.4%
第1四半期	2,046	98.8%	18	89.1%	2,028	98.9%	1,095	96.9%	932	101.5%	540	104.7%	393	97.4%
第2四半期	1,952	100.0%	19	93.6%	1,933	100.1%	1,090	94.3%	843	108.7%	460	126.6%	384	92.9%
第3四半期	1,925	99.3%	19	94.6%	1,906	99.4%	1,037	94.9%	869	105.2%	460	112.0%	409	98.5%
第4四半期	1,962	98.9%	17	94.6%	1,945	98.9%	979	94.8%	966	103.5%	588	106.0%	377	99.9%
上期	3,998	99.4%	38	91.4%	3,960	99.5%	2,185	95.6%	1,775	104.8%	999	113.8%	776	95.1%
下期	3,887	99.1%	36	94.6%	3,850	99.1%	2,016	94.9%	1,834	104.3%	1,048	108.5%	786	99.2%
年度	7,885	99.3%	74	92.9%	7,811	99.3%	4,201	95.2%	3,609	104.5%	2,047	111.0%	1,562	97.1%

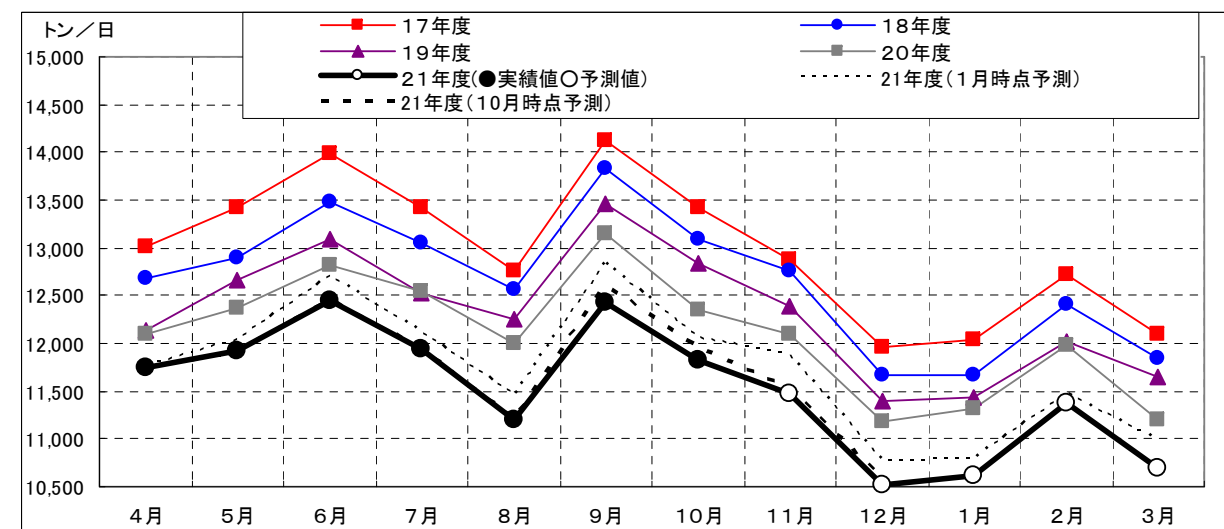
【用途別処理量予測の前提】

- 注1) 生乳供給量は、生乳生産量から自家消費を差し引いて算出(自家消費は、各地域の過去3年の伸び率等を勘案して算出)。
 注2) 牛乳等向処理量は、牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を元に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
 注3) 乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。
 注4) その他乳製品向処理量は、チーズ向け及び生クリーム等向処理量の合計で、直近の処理動向等を勘案し算出。
 注5) 特定乳製品向処理量は、乳製品向処理量とその他乳製品向処理量の差。

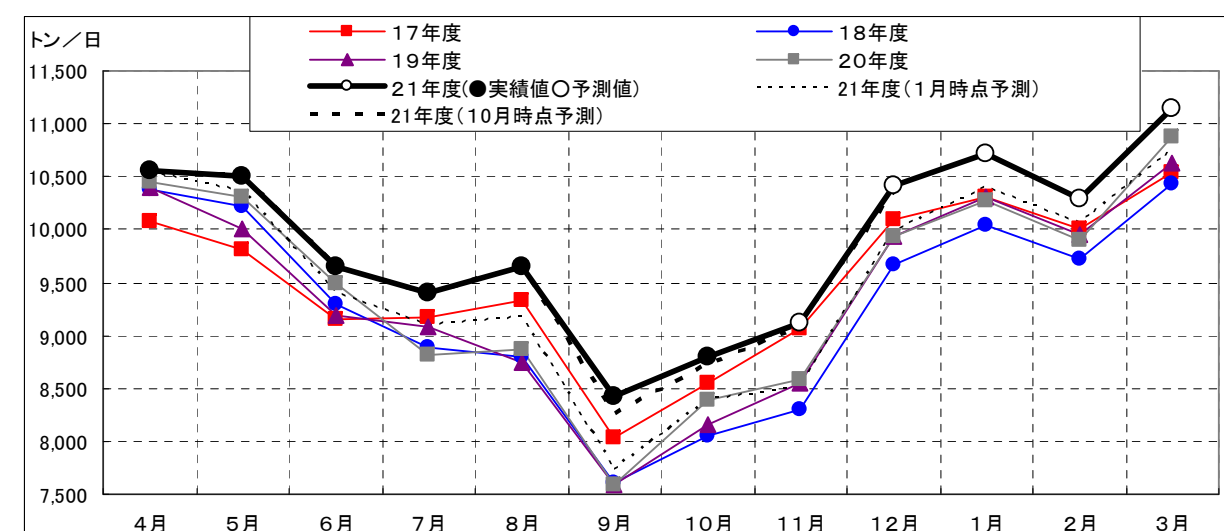
グラフ7. 生乳供給量(全国・日均量)



グラフ8. 牛乳等向け生乳処理量(日均量)



グラフ9. 乳製品向け生乳処理量(日均量)



4. 乳製品需給の動向

【脱脂粉乳の需給】

- ・脱脂粉乳の生産量は、年度合計で169.1千トﾝ（108.8%）と見通される。
- ・脱脂粉乳の供給量は、輸入売り渡し実績が6.1千トﾝであるので、年度合計で175.2千トﾝと見通される。
- ・脱脂粉乳の消費量は、年度合計で147.9千トﾝ（95.4%）と見通される。
- ・脱脂粉乳の年度末の民間期末在庫量は、70.4千トﾝ（163.3%・5.4ヶ月）と見通される。

表4. 平成21年度 脱脂粉乳需給の見通し

千トﾝ

	生産量		輸入 売渡し	供給量	消費量			在庫量		
	前年比				在庫対策	民間在庫量		月数	前年比	
15年度	184.4	103.1%		184.4	172.0	99.3%	93.2	6.5	115.4%	
16年度	182.7	99.1%		182.7	187.9	109.3%	22.1	88.0	6.1	94.4%
17年度	189.7	103.9%		189.7	202.4	107.8%	36.8	75.3	5.4	85.6%
18年度	177.0	93.3%	3.3	180.3	187.6	92.7%	31.2	68.3	5.0	90.8%
19年度	171.4	96.8%		171.4	197.0	105.0%	25.7	42.8	3.3	62.6%
20年度	155.4	90.6%		155.4	155.1	78.7%	43.1	3.0	100.7%	
21年度	169.1	108.8%	6.1	175.2	147.9	95.4%	70.4	5.4	163.3%	

【バター需給】

- ・バターの生産量は、年度合計で82.6千トﾝ（115.1%）と見通される。
- ・バターの供給量は、輸入売り渡し見込み数量が0千トﾝと見込まれるので、年度合計で82.6千トﾝと見通される。
- ・バターの消費量は、年度合計で73.1千トﾝ（94.5%）と見通される。
- ・バターの年度末の民間期末在庫量は、37.6千トﾝ（133.9%・5.8ヶ月）と見通される。

表5. 平成21年度 バター需給の見通し

千トﾝ

	生産量		輸入 売渡し	供給量	消費量			在庫量		
	前年比				在庫対策	民間在庫量		月数	前年比	
15年度	81.6	102.5%	10.5	92.0	89.0	102.7%	26.7	3.7	112.8%	
16年度	80.6	98.8%	7.8	88.3	89.3	100.3%	25.8	3.5	96.4%	
17年度	85.5	106.1%	4.4	89.9	84.6	94.8%	31.0	4.2	120.2%	
18年度	78.0	91.3%	3.4	81.4	89.6	105.9%	0.1	22.9	3.3	73.8%
19年度	75.1	96.2%	12.2	87.3	91.0	101.6%	0.2	19.2	2.6	83.8%
20年度	71.8	95.6%	14.5	86.2	77.3	85.0%	28.1	3.7	146.1%	
21年度	82.6	115.1%		82.6	73.1	94.5%	37.6	5.8	133.9%	

【乳製品需給予測の前提】

- 注1) 脱脂粉乳・バター消費量は、①過年度の実績、②乳製品と代替関係にある「生クリーム等向け」の処理見込み量等を基に算出。
- 注2) 脱脂粉乳生産量は、月別の特定乳製品仕向け見込み量に製造係数（過去3年平均値及び直近の動向を反映した数値）を乗じて算出。
- 注3) バター生産量は、月別の特定乳製品仕向け見込み量に製造係数（過去3年平均値及び直近の動向を反映した数値）を乗じて算出。
- 注4) 輸入売り渡し（カレントアクセス）数量の見込み値を織り込んでいる。
- 注5) 乳製品の在庫月数は、当該月の在庫量を昨年の一月当り消費量で割ることにより算出。

5. 都府県の生乳需給

【都府県の生乳需給】

- 都府県における北海道からの搬入必要量（需要量）は8月以降に前年を大きく下回り、11月以降も同様に前年を下回って推移すると見込まれる。
- 都府県における特定乳製品向け処理量は、需要期に入った6月以降増加傾向に転じ、最需要期である9月に前年を大きく超えている。現状の基調で推移すると、11月以降も前年を超える水準で推移する見込みであり、学乳が休止する年末年始時期の特定乳製品向け処理量は12月：40千ト（前年比113.1%）、1月：47千ト（前年比114.2%）と見通される。
- また、春休み時期の3月の特定乳製品向け処理量は55千ト（106.6%）と見通される。

表6：平成21年度 都府県の生乳需給の見通し

	生乳供給量 A		牛乳等向 B		その他乳製品向 C		A-B-C	移入量 (必要量)		特定乳製品向	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		前年比	前年比		
4月	345	96.8%	312	97.9%	17	95.7%	16	22	99.3%	38	90.8%
5月	352	96.4%	328	97.4%	15	86.4%	9	24	105.7%	33	98.6%
6月	328	96.4%	332	97.9%	13	88.0%	-18	35	115.1%	17	107.6%
7月	323	98.2%	327	96.2%	15	90.6%	-18	39	100.1%	21	170.5%
8月	315	99.0%	305	94.5%	16	97.5%	-6	33	84.8%	27	149.2%
9月	309	100.0%	330	95.8%	16	109.1%	-37	48	84.8%	12	160.9%
10月	319	98.7%	325	97.0%	15	98.7%	-22	37	88.7%	15	110.4%
11月	310	98.7%	305	95.8%	15	98.3%	-9	29	88.5%	20	140.1%
12月	324	98.1%	288	94.9%	18	98.5%	18	22	81.8%	40	113.1%
1月	331	97.4%	292	94.8%	15	98.2%	24	24	91.8%	47	114.2%
2月	306	97.5%	283	95.8%	15	98.2%	8	22	91.9%	31	110.5%
3月	345	97.6%	295	96.0%	17	98.2%	33	22	97.0%	55	106.6%
第1四半期	1,025	96.6%	972	97.7%	46	90.2%	8	81	107.5%	89	96.6%
第2四半期	948	99.1%	963	95.5%	46	98.7%	-61	121	89.2%	60	158.4%
第3四半期	953	98.5%	918	95.9%	48	98.5%	-13	89	86.8%	76	118.6%
第4四半期	981	97.5%	870	95.5%	46	98.2%	65	68	93.4%	132	110.1%
上期	1,973	97.7%	1,935	96.6%	92	94.3%	-53	202	95.8%	149	114.6%
下期	1,934	98.0%	1,787	95.7%	95	98.4%	52	157	89.5%	208	113.0%
年度	3,907	97.9%	3,722	96.2%	186	96.3%	-1	359	92.9%	356	113.7%

【都府県の生乳需給予測の前提】

- 注1) 牛乳等向は、北海道の牛乳等向生乳量を予測し全国の数値から差し引くことで算出。
 注2) 需要期の特定乳製品向は、過去5年間の当該月の特定乳製品向の平均水準を基本とし直近の動向を加味し算出。
 注3) その他乳製品向については直近の動向を踏まえ設定。
 注4) 北海道からの移入必要量は、ブランド対応分として日均約700トを前提とし算出。

6. 直近の酪農情勢及び21年度全体の予測値を踏まえた酪農乳業の課題と対応

生乳の供給は、北海道が前年を上回って堅調に推移し、また、前年を下回って推移していた都府県においても7月以降減少幅が縮小して推移しており、年度合計では近年の水準と変わらず緩やかな減少にとどまる見込みである。

一方、生乳の需要は、飲用については、前年より大きく減少する見込みである。なお、飲用需要の減少率と都府県の生乳供給量の減少率を比べた場合、7月以降、飲用需要の減少率が大きくなっており、都府県における特定乳製品向け処理量が前年より増加している。

また、乳製品については、チーズ向け乳価の改定等、酪農乳業関係者の協調による需要拡大への取り組みが行われているものの、その他乳製品（チーズ及び生クリーム等）の需要については、年度合計では、前年より減少する見込みである。

さらに、特定乳製品（脱脂粉乳及びバター）については、主に、飲用及びその他乳製品向け需要の減少により、特定乳製品向け処理量が加工原料乳限度数量（195万ト）を大きく超えるとともに、その需要も大幅に減少していることにより、年度末の在庫量は両製品とも昨年度を大幅に上回る見込みである。

このように生乳の需給は大きく緩和しており、このままの状況が続けば、22年度以降の生乳需給は、より厳しくなることも想定され、予断を許さない状況にある。なお、直近では、乳製品の国際価格が急騰しているが、今後、国産乳製品の需要に大きな影響を及ぼすかどうかは、現段階では不透明である。

このような状況を踏まえ、酪農乳業関係者は、今後、次の事項について取り組んでいくとともに消費者及び流通関係者等の理解醸成を図るものとする。

1. 生産・消費動向の把握と需給情報の共有化

酪農乳業関係者は、需給動向に関する的確な情報の共有化を図り適切な対応を迅速に行うものとする。

2. 生乳需要の拡大のための取り組み

酪農乳業関係者は、自ら牛乳乳製品の消費に努めるとともに、実効性のある牛乳乳製品の消費拡大対策を実施する。

3. 飲用牛乳類の不需要期の対応

現時点の需給状況を踏まえると、都府県における特定乳製品向け処理量は、学校給食用の牛乳の供給が休止される冬休みや春休みの期間は前年を大きく超える水準で推移すると見通され、都府県における処理能力の実態を踏まえると大きな混乱が生じること等も危惧される。このため、生乳取引当事者においては、処理が困難な生乳の発生状況等の情報を共有し、的確な配乳計画や処理計画を策定の上、実効性のある対応を実施する。